令和５年度　京都府立綾部高等学校（本校全日制）　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）　（計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進	（成果） ◇１年生でBYODのタブレットを１学期末に導入し、ICTを活用した授業や研修に取り組んだ。また、会議や配布資料のペーパーレス化をはじめとする業務の効率化についてもさらに推進することができた。 ◇探究活動や課題学習では、大学、事業所、市役所などと連携したり、テーマにSDGsを取り入れたりすることで、生徒の経験、新たな気づきにつなげることができた。そのことで生徒の思考力・判断力・表現力そして自己肯定感を育成することができ、進路実現にもつなげることができた。 ◇進路指導では、四年制国公立大学合格者が１４名と指導の成果が表れた。また、学校斡旋による就職内定率も100%だった。ひき続き、個々に応じたていねいな進路指導を行い、希望進路の実現に努めたい。 ◇部活動では、体育系では全国高等学校総合体育大会に、カヌー部、ソフトテニス部、水泳部が出場し、カヌー部では、日本代表として４月のアジアパシフィック大会に出場することも決まった。また、陸上競技部とソフトテニス部は、近畿大会にも出場するなど活躍した。文化系では放送部がNHK放送コンテストで全国大会に出場を果たし、吹奏楽部もアンサンブルコンテストで初の銀賞を獲得するなど活躍し、12月の綾部高校アートギャラリーも３年ぶりに開催でき盛況だった。 ◇Quality　Teacherについて、年度当初に教職員それぞれが目標を立て、その目標を意識しながら取り組むことができた。また４Sもさらに推進することができ、衛生委員会による職場安全点検ではさらに昨年度よりも高評価を得ることができた。 （課題） ◆教育活動に関するアンケートの保護者の回答率が下がり、全体に評価がわずかに下がった。日常からタイムリーなスタディサプリでの情報提供やＨＰの更新に努め、回答率を上げて全体の評価を把握できるようにしたい。学力向上に関する項目でも目標とする結果には到達できなかった。学力向上のため、ICTの効果的な活用方法について研修に努め、学習効果をあげていきたい。また、活用を進めるにあたってはＩＴリテラシーの向上にも努めたい。 ◆計画した新課程での探究活動が実現できるよう、校内体制を整えて実施していくことが重要である。生徒の思考力・判断力・表現力の育成につなげるため、ひきつづき本校の特徴として重点的に取り組みたい。 ◆コロナ禍で制限が多かったが、学校公開や宿泊行事、中丹文化会館での講演会、文化祭及び体育祭など工夫してできるだけ以前の形で行うことができた。さらに生徒会活動も活発に展開し、以前と同様の行事などの活動ができるようにしていき、より活発に楽しく活動する生徒の様子を地域や中学校に届け、本校志望者の増加につなげていきたい。 ◆４S運動をベースとして、あいさつの励行、携帯電話・スマホの利用マナー、登下校の通学マナー、自転車の乗車マナーの向上など生徒の規範意識を向上を図り、シティズンシップ教育を継続し、充実させていく。 ◆働き方改革をさらに進めていくため、業務を効率よく行えるよう、学習環境・職場環境の改善に今後も継続して取り組んでいきたい。 ◆新型コロナ感染拡大防止対策のための制限や予防接種や感染などで、依然として生徒のストレスは高く、本校の学籍を離れる生徒も多かった。今後状況の改善がみこまれるため、より楽しく有意義な高校生活が送れるように教育活動を進めていきたい。 ◆生徒の安全な高校生活のため、警察署などの外部機関と連携を密にし、充実した講習会を展開していきたい。	**■A・G・P(Ayabe Global Program)の推進** **～社会に通じる力の育成を～** **〇学びの充実　〇将来の展望　〇地域・社会と連結** **<スマートスクール>** ・ICTを活用した授業　・BYODを活用した授業 ・ロイロノートの活用　・スタディサプリの活用 ・ONLINEの活用　・ペーパーレス化<Slack> **<探究活動>** ・思考力・判断力・表現力の育成　・海外高校生との交流 ・フロンティア学の推進　・探究の時間の推進 ・わいがやルームの活用　・SDGsを授業や部活動へ **<地域発信>** ・アスレッツ綾部の推進　・綾高ブランドの開発 ・地域での部活動発表　・地域でのボランティア活動 **<連携事業>** ・京都先端科学大学　・福知山公立大学 ・京都工芸繊維大学　・同志社大学 ・京都府立農業大学校　・地域企業とのコラボ ・農業体験授業 **■3Q・4Sの推進　さらなるステージへ(進化・深化)** **3Q** **<Quality Teacher>**　教師としての資質向上 **<Quality School>**　教育内容の充実 **<Quality Students>**　未来を切り拓く人材の育成 **4S** **<整理><整頓><清潔><作法>** 整理整頓を心がけ、清潔な職場・学習環境を整える TPOに応じた言動を心がける 明るく元気に、笑顔がある学校

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
1 組織・運営	AGPをベースとした魅力ある学校づくり	新課程での探究活動を校内体制を整えて実施するとともに、ICT環境を生かした授業、探究活動を、地域や校外の機関との連携を更に推進しながら展開する。				
		教育活動に関するアンケートの「学力が向上していると思う（そう思う・どちらかと言えばそう思う）」の合計が生徒・保護者ともに75%以上を目指す。				
	組織的な学校運営と業務のスリム化	外部機関との連携を密にするとともに、チーム学校として分掌、教科、各種会議の連携を図り、組織的な学校運営を推進する。				
		整理・整頓・清潔・作法の徹底、ペーパーレス化、会議の効率化を進め、職場環境や業務の改善を更に推進し、月平均時間外勤務時間40時間以下を目指す。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
2 総務企画部	広報活動の充実	ICT環境・国際教育などの取組を充実し、魅力ある学校作りを目指す。				
		本校進学の利点を明確に伝える広報を、中丹地域等の中学3年生向けに年に５回発行する。				
		オープンキャンパス以外の受験生とのコミュニケーションとして、WEB・動画による情報配信を行う。				
	人権教育・国際教育の推進	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、人権意識を啓発する取組を行うことで生徒や教員の人権意識の向上を図るとともに、各学年での人権HRの充実をはかる。				
		日本文化や異文化を理解し、尊重する態度を育成する教育を推進する。				
	ＰＴＡ活動の支援	ＰＴＡ活動をより充実させるために、本部役員会や学級委員との連携をさらに深める。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
3 教務部	新教育課程への対応	観点別評価の適切な運用に向けて教科間での議論を深める。				
		生徒が希望進路に合わせた科目選択できるように各教科担任と連携をする。				
	基礎学力の向上 主体的な学び	全教職員がロイロノートを活用した授業を行い、授業実践例の共有を深める。				
		各教科との連携を密にし、学習コンテンツの導入を検討し、個に応じた学習指導ができる環境づくりを整備する。				
	探究活動の充実	フロンティア学担当が学年部や授業担当者と連携をしながら、探究活動を充実させる。				
		探究活動を通じて、主体的に学ぶ力をつけさせる。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
４ 生徒指導部	安心して学べる学校作りを目指す	いじめや暴力をなくす指導を行い、命の大切さを伝える。				
		授業を大切にし、学力の向上をめざすためにも、携帯電話・iPad利用のマナーやモラルの向上を目指す。（授業中の不正使用年間30件以内）				
		盗難の未然防止のため、校内巡視をすると共に、各自の貴重品等の管理意識を向上させる。（発生件数年間０件）				
	シティズンシップ教育を推進する	生徒会を中心に生徒が学校行事等を主体的に企画・運営するよう指導する。				
		登下校時の通学マナーや自転車マナーの向上を目指す。				
		ボランティアバンクを活用し、ボランティア活動に積極的に参加し、地域社会とのかかわりを深める。				
	基本的生活習慣を確立する	常に身だしなみを整えるように、教職員全体で日常的な指導を徹底する。（身だしなみスランプラリーの実施）				
		入室許可証システムと遅刻スタンプラリーを実施し、学校と家庭が連携して指導する。（朝の遅刻５回以上学期３名以内）				
		挨拶の励行や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
５ 進路指導部	希望進路の実現	各生徒の希望進路の実現を果たし、卒業後の進路未決定を０とする。				
		多様な進路選択のある中で、教員の指導態勢を整え、生徒一人ひとりの進路に適した指導を行う。				
		学年部、教科と連携した組織的進路指導を展開し、担任との情報交換を密に行い、生徒の進路決定に必要な情報を積極的に共有する。				
	確かな学力の育成	模試分析の資料や入試過去問題の積極的活用を図り、充実した教科指導のための環境整備を図る。				
		長期休業中に実施する特別進学講座の有効的活用を図り、また、模試データの分析とその活用を充実させ、個々の生徒の学習課題の解決を図る。				
		到達度テストを実施し、生徒の基礎学力を測り、生徒自身が自らの課題を自覚的に学習するとともに、教員も生徒の課題を共有し課題解決に向けて取り組む。				
	自らキャリアを切り拓く力の醸成	高大接続事業を導入し、志望分野の学問観を養うとともに、主体的に自らの興味関心を探求する意識を醸成する。				
		キャリアパスポートや志望理由書サポート講座を実施し、ガイダンスや体験活動への参加を促すなど、主体的に希望進路を決定できるようにサポートする。				
		望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、各生徒の特性に応じた就職支援を行う。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
６ 保健部	健康及び体力の維持・向上	保健だよりを年間10回以上発行し、睡眠や休養など基本的生活習慣の見直しを図り、健康への自己管理能力を身につけさせる。				
		掲示物等を効果的に活用し、危機管理、感染予防についての啓発活動を行い、生徒が知識や認識を深め健康で安全な生活を送れるようにする。				
		健康診断の結果、受診が必要な生徒について受診するよう指導を徹底する。				
	４Ｓ運動の推進	委員会活動による清掃状況の点検（ＳＫＤ活動：掃除をきれいにできる）を行い、日々の清掃活動を徹底させる。				
		委員会主体の啓発活動を通じて身の回りの整理整頓やゴミの分別・持ち帰りを徹底し、学習環境を整える。				
	個性や能力を伸ばす支援体制の構築	特別な支援を必要とする生徒を早期に把握し、学年部・教科・分掌・家庭との連携を図り、迅速な対応を行う。				
		保健室を窓口として学習支援員や専門機関との連携を図り、特性や課題のある生徒への将来を見据えた具体的な支援につなげる。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
7 第1学年部	学習習慣の確立と基礎学力の定着	ベル着等の授業規律の確立を基盤とし、主体的に学習に取り組む態度を育てる。				
		学習習慣を確立し、授業内容の定着を図る。				
		教科担任と連携を密にし、個に応じた指導を行う。				
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	規範意識を育成し、時間・期限を守る指導を徹底する。				
		４S運動に基づき、挨拶や身だしなみなどのマナー指導を徹底し、教室の環境美化を図る。				
		保護者との連絡を密に行い生徒の情報共有を行うとともに関係分掌との連携を図る。				
	自己理解の深化と進路意識の向上	綾高祭や学年行事等に主体的・積極的に取り組ませ、自身の役割を捉える力と協働する態度を育成する。				
		学校生活の様々な集団活動を通して、互いに認め合い、他者を思いやる心を醸成する。				
		部活動、ボランティア活動等への参加を勧め、多くの人と関わりの中で、多くの知識・経験を得て、自身の進路選択の幅を広げる。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
8 第2学年部	基本的生活習慣の定着と規範意識の育成	社会で生きるために必要な、挨拶や身だしなみ、規則の遵守を大切にする態度を育成する。				
		携帯電話等の違反利用者の根絶を目指し、「授業」を大切にする姿勢の徹底を図る。				
		保護者との連絡を密に行い、生徒の情報共有を行うと共に、関係分掌と連携して指導する。				
	学習習慣の定着と希望進路実現に対する意識の育成	授業にしっかりと臨ませる指導を徹底し、学びに向かう「学習環境」をつくる。				
		教科担当と連携を密にし、個に応じた指導を行う。				
		各コースの実態に即した指導等をふまえ、進路実現に対する意識を喚起し、その達成のための基盤をつくる。				
	豊かな人間性と協働性の育成	人権を尊重し、多様性を受け入れる態度を育成する。				
		綾高祭や修学旅行等の行事に積極的に取り組ませ、仲間との信頼関係を深めさせる。				
		部活動・ボランティア活動への積極的な参加を勧め、人間的な成長を促す。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
9 第3学年部	希望進路の実現	教科担任との連携を一層密にし生徒の状況を把握するとともに、面談を適切に実施し、個に応じた指導・支援を行う。				
		進路指導部と連携し、進路選択に関わる情報提供を効果的に行うなど、希望進路実現につながる取組を充実させ、目標達成まで粘り強く努力させる。				
	豊かな人間性及び社会に通じる力の涵養	最高学年としての自覚を高め、社会生活の基本には人権の尊重があることを日々意識させ、学校生活の様々な活動に取り組ませる。				
		社会に生きる一員として、挨拶・身だしなみ・環境美化及び規則の遵守を大切にする態度を育成する。				
		学校生活の様々な場面で生徒に活躍の場を与え、他者を尊重する姿勢を培い、目標に向かって協働できる集団を作る。				
	生徒及び保護者との信頼の深化	面談や家庭連絡を通じて保護者との連絡を密にし、生徒の情報共有を行い、希望進路の実現、人間力の伸長を支援する。				
		学年部起案の通信やホームページにより、生徒に関わる情報の発信に努める。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
10 事務部	適正な事務処理の遂行と教育の諸条件整備	短期経営目標に基づいた予算の計画的・効率的な執行を行う。				
		各分掌部長や教科主任と連携し、ICT・探究活動を取り入れた教育活動を推進する。				
	窓口業務及び電話対応における信頼される学校	保護者や来客者等に親切・迅速・丁寧な窓口対応を行う。				
		電話対応において、迅速な取り次ぎ、丁寧かつ的確な説明を行う。				
		来客者に来客者名簿を記入いただくことで来客者の行動を把握し、不審者対応を図る。				
	安心・安全・清潔な環境整備	４S（整理・整頓・清潔・作法）運動を基に、安全で清潔な教育環境の整備に努める。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
1 国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	計画的・継続的な小テストや課題への取組を通じて、家庭学習に主体的に取り組めるよう指導する。				
		基本的な語彙力の向上を目指し、日本漢字能力検定の受検を推奨し、合格率50%となるよう支援する。				
		学習規律を確立するとともに、切磋琢磨する学習環境づくりに取り組む。				
	個に応じた指導を進め、希望進路の実現を支援する。	模擬試験等の分析により、各コース、個人の実態の把握に努め、その特性に合わせた指導を行う。				
		各クラス担任、進路指導部と連携し、小論文・志望理由書の作成等、表現に関わる取組の支援を行う。				
		「読書の時間」等、読書の取組を通じて、読解力、思考力の育成を目指す。				
	国語科全体の教科指導力の向上に努める。	お互いの授業を参観して研鑽を積むとともに、指導方法等について積極的に意見交換し、指導力の伸長を目指す。				
		実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する方策の研究に努める。				
		効果的なICTの活用やアクティブラーニングの実践等について研究し、授業に生かす。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
2 地歴・公民科	生徒の希望進路の実現	生徒が主体的に取り組める効果的な課題・機会を提供し、質の高い学力を育む。				
		個に応じた指導を充実し、各種模擬試験や入試でしっかり結果を出せるよう努める。				
	教師の教科指導力の充実	各種模擬試験の結果を分析し、生徒たちの学習課題を把握し、授業改善に努める。				
		成績不振者を減らす。地歴公民科全体で各学期５人未満を目指す。				
	授業方法の改善	新テスト、新学習指導要領における新科目についての研修を深め、対応力をつける。				
		生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する授業の工夫、効果的なＩＣＴの活用について研修を深める。				

分掌教科	項目（重点目標）	具　体　的　方　策　及　び　数　値　目　標	評価			成　果　と　課　題
３ 数 学 科	学力の向上	基礎基本をしっかりと理解させ定着させる。そのために、課題や小テストを活用して家庭学習の習慣化を図る。				
		模擬試験や大学入試問題を活用して、大学入試における標準的な問題が解けるように、学力の向上を図る。				
		数学を苦手とする生徒の支援を行う。				
	教科指導力の向上	生徒が授業に能動的に参加できるように、授業展開やプリントを工夫したり、ICTを活用したりする。				
		生徒の理解が少しでも深まるような問題解説や問題演習を行う。				
		ロイロノートの効果的な活用法を考える。				

分掌教科	項目（重点目標）	具　体　的　方　策　及　び　数　値　目　標	評価			成　果　と　課　題
４ 理 科	個々の生徒・コースに応じた指導の工夫	「主体的・対話的で深い学び」の観点から、各々の科目において、生徒の思考・判断を促す発問をし、年度末の授業評価アンケートにおいて、７割以上の肯定的な意見の獲得を目標とする。				
		実験・観察や野外活動を積極的に実施し、各講座ごとに少なくとも学期に1回は実験・観察等の探究的に活動させる授業を行う。				
		授業規律を確立し、ロイロノートの課題配信を有効に利用することにより、個々の生徒に応じた指導を行う。				
	基礎学力の定着と希望進路の実現	各学年部・担任との連携を密にすることで各々の生徒・コースの学習状況を把握し、指導に活かし、教科の評定平均値3.5以上を目指す。				
		電子黒板・ICT機器を用いた授業を実施する。ロイロノート等を用いて個々の生徒が自身の意見を表現する機会を各単元に１回程度設ける。小テストや学習課題等を学期に１回以上実施する。				
		３年生秋の模擬試験において、受験者の理科偏差値50以上を目指し、普段の授業や休業中の進学講習において過去の模擬試験問題の解答解説等を効果的に行う。				
	指導力の向上に努める	ロイロノートやロイロノート以外のアプリを効果的に活用し、その実践報告を日常的に行い、ＩＣＴ機器を活用した効果的な授業実践に努める。				
		校外での研修に積極的に参加し、自己研鑽に努める。教科で年間合計４回以上の研修に参加する。ＢＹＯＤ及び３観点評価に関する研修を教科で年２回実施する。				
		公開授業や研究授業に、教科で12回以上参加し、教科指導力の向上を目指す。				

分掌教科	項目（重点目標）	具　体　的　方　策　及　び　数　値　目　標	評価			成　果　と　課　題
５ 保 健 体 育 科	質の高い授業を展開する	安全面に留意し、挨拶、集団行動、身だしなみ等、けじめのある授業を実施し、授業規律の確立を図る。				
		時間を大切にする意識を持たせ、授業遅刻を年間でのべ10人までにする。				
		ICTの積極的な活用や、有意義な班活動の実施、ノートや課題の提出等、質の高い授業の展開を目指す。				
	生涯を通じて運動ができる資質や能力を育てる	運動量の確保に努め、体力及び運動技能を向上させる。				
		班活動を通して、自主、協力、責任等の社会性を育てる。				
		運動への興味・関心・意欲を高め、生徒自ら積極的に活動させる。				
	健康・安全への関心を高め、日常生活の中で実践できる力を育む	自ら課題を見つけ、探求する能力及び行動力を育てる。				
		健康の保持増進への知識や理解を深め、基本的生活習慣を身に付けさせる。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
６ 英 語 科	新学習指導要領に対応した授業実践と評価の工夫	４技能５領域を統合した指導法や授業展開について、研究や実践を行うとともに、教材と指導案を共有する。				
		現行の英語科CAN-DOリストを見直し、新学習指導要領に基づいた目標設定や活動内容を取り入れる。				
		英語科全体で年間1人1回以上は学外の研修やオンライン研修に参加し、観点別評価の工夫や効果的な指導方法を学び、情報を共有する。				
	基礎学力の定着と応用力の伸長	小テストや週末課題を適切に実施し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。				
		応用力伸長のために、学習アプリを有効に活用するとともに、進学特別講習や習熟度講座を生徒の実態に応じて適切に設定する。				
		実用英語技能検定試験の校内受験の機会を設けて受験を推奨する。年間の合格者目標数を、準２級３０名・２級２０名（昨年度合格者数　準２級２１名・２級１２名）。				
	英語を用いた情報処理能力と発信力の強化	言語活動を中心に据えた授業を展開するとともに、各学期に1回はパフォーマンス課題に体系的に取り組み、英語を用いて自己表現する力を伸ばす。				
		４技能５領域の効果的な伸長を図るために、ICT機器や教材を有効に活用するとともに、成果の総括と授業改善を行う。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
７ 芸 術 科	基礎技術を充実させ自ら表現しようとする意欲を育てる	生徒一人ひとりの能力の掌握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。				
		表現活動を適切に評価できるように指導と評価の分析に注力し、生徒の意欲向上へつなげる。				
		授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にする。				
	感性を磨き、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる	鑑賞活動を通して生徒の興味・関心を高め、幅広い価値観を養う。				
		自らの言葉で作品の良さについて表現できるよう言語活動を充実させ、感性を伸ばし生涯にわたって芸術を愛好する心情を養う。				
	指導力を向上する	双方向性のあるICT活用術について研究する。				
		生徒の興味・関心に鑑み、効果的な教材を選定し、表現する楽しさを体験させ。達成感を味合わせる。				

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価			成果と課題
８ 家 庭 科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す	生徒の実態、地域社会や家庭生活における課題を踏まえた授業を実践する。				
		授業での実習や家庭での実践課題を充実させる。				
		卒業後の生活や生涯を見据えた学習を取り入れる。				
	自ら学ぶ意欲を育てる	地域に密着した学習内容を検討し、身近な社会問題や地元の魅力に気づける授業を展開する。				
		ＩＣＴを効果的に活用した授業を実践する。				
		目標が明確でわかりやすい指導と評価方法を実践していく。				
	指導力の向上	教科担当内で情報を共有し、よりよい授業を検討していく。				
		研修会への積極的な参加と、地域連携の強化を図る。				

分掌教科	項目（重点目標）	具　体　的　方　策　及　び　数　値　目　標	評価			成　果　と　課　題
９ 情 報 科	基本的なＩＣＴ機器の使用方法	キーボードによる入力を練習に力を入れる。文字数にして年度当初から10%の向上を目指す。				
		文書作成、表計算、プレゼンのソフトウェアの使い方を指導する。				
	情報モラル意識の育成	個人情報の取り扱われ方を通して、自己の個人情報について指導する。				
		知的財産権（著作権・特許権など）の歴史を通して、その重要性を理解させる。				
		インターネットの安全な使い方、被害に遭わない使い方について指導する。				
	情報技術の活用	基本的なデジタル情報の仕組みについて理解させる。				
		インターネットの仕組みについて理解させる。				
		2025年度から始まる大学共通テストに向けた対策を考えていく。				

学校関係者評価委員会による評価	

次年度に向けた改善の方向性	